

2025 (令和 7) 年度

大津市立志賀小学校

「学校評価書」

大項目	中項目	小項目		自己評価			学校関係者評価		今後の学校改善に向けて
				小項目評定	中項目評定	現況	中項目評定	意見・提言等	
学校教育目標	教育目標・校務運営	1	教育目標や学校経営の方針、学校経営の重点を理解し、実践することができた。	A	A	学校教育目標および学校経営方針を全職員が共通理解・共通実践し、達成に向けて邁進している。各校務分掌については、さらに活性化できる余地のある部分があり、更なる組織改善を目指す。	A	日頃の児童の様子から、教職員がスクラムを組み積極的に教育活動に取り組んでいることが分かる。目指す児童像を職員全体で共通認識していることが窺える。今後も、継続してじっくり取り組んでほしい。	引き続き、目指す児童像を教職員全員で共通認識した教育活動を進める。また、教育目標や重点目標と整合し、教職員の適性や経験に応じた校務分掌を組織する。各分掌の引き継ぎを丁寧に行之、新年度も変わらず児童への適切な対応ができるようにする。
		2	校務分掌での役割を理解し、組織の一員として積極的に参画することができた。	A					
	志賀小のあたりまえづくり ～元氣いっぱい 笑顔あふれる 志賀小～	3	児童は、心のこもったあいさつ・ていねいな言葉づかいができるようになっている。	A	A	「志賀小のあたりまえづくり」に掲げている3校訓は、教職員や児童達に確かなものとして浸透している。地域や外部の方々から、本校児童の日常の姿に対し賞賛を得ている。特に高学年の児童の姿は、下学年により影響を大きく与えている。	A	児童にも教職員にも、分かりやすく目標とする姿を示せたことが大きな成果である。地域でも、自分から進んであいさつができる児童の姿が、多く見られるようになった。さらに増えてくると、地域もさらに活気づくだろう。黙々と掃除をする姿は、とても素晴らしいと感じた。	教職員自身が三校訓の範を示し、児童の頑張りを称賛しながら丁寧な指導を続け、確固たる姿が見られるように推進していく。また、高学年が模範となって志賀小学校が目指している児童の姿を示すことや、志賀小よい子ニュースの充実を行うことで、全校に広められるように図っていく。
		4	児童は、人の話を目と耳と心で聴くことができるようになっている。	A					
		5	児童は、一人で黙々と掃除に取り組むことができるようになっている。	A					
確かな学力の推進	主体的・対話的で深い学び	6	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりを実践することができた。	A	A	支持的風土づくりには、どの教職員も積極的に取り組む意欲を持っている。午後からの「志賀っ子タイム」で、国語科の「話す・聞く・書く」等の学習を繰り返し行い、国語科の基礎学力を育てている。また、「ひろげよう」の校内放送を継続して行うことで、「わかりやすく話す力」の向上を図っている。	B	教職員と児童達の信頼関係が、しっかりと築かれていると感じた。学習環境が整い、落ち着いた空気で学習が進められている。今後も成果と課題を検証して、良いものについては継続して取り組んでほしい。また、校舎の老朽化が気になる。修繕できると、より児童の学習環境が整うのではないかと。	日常的に、どの教科においても児童が意欲的に学びたくなる授業を展開していく。また、ＩＣＴ機器を効果的に活用した授業づくりを積極的に進めていく。一人一台のタブレット端末を、視覚的な学習支援として活かしながら、学び方の幅を広げていく。
		7	協同する体験や伝え合う喜び、コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善を行った。	A					
		8	主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会を行った。	A					
	道德教育の充実	9	生命を尊重するむやいじめを許さない態度などの道德的実践力を育てる活動の実施を行った。	B	B	いじめは決して許さない、命を大切にすることについて、教職員がゆるぎない思いを持って取り組むことができている。学んだことを児童が自分事としてとらえ、実生活につなげて考えられるような話し合いや意見交流を、授業で積極的に取り入れている。	B	来校した際に出会うと、すれ違いの時であってもきちんとした言葉づかいで丁寧に話したり、あいさつをしたりできる児童が大変多い。登下校中に、低学年の児童を思いやる高学年の姿を見かけることがある。見守り隊等地域の人々への感謝の気持ちや、育ちつつある児童の姿も見られる。これからも継続してほしい。	日々道德科の研究と研修を継続して深めていく。今後も適宜カリキュラムの修正を行ったり、評価等の研修会を開催したりしながら、授業力を高め児童達が実践する姿につなげていく。三校訓をもとにした人間性の育成を継続しつつ、日々の生活全体をとおして児童の実践力を評価し、高めていきたい。
		10	道德の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流を行った。	B					
		11	保護者等への道德の授業公開を行った。	B					
	体力づくり	12	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善を行った。	A	A	指導と評価の一体化を目指し、運動量を意識した体育の授業を設定すること、児童が運動したいと思えるような環境整備を継続することができた。また、委員会を中心に、縄跳び大会やリレー大会などのイベントを実施することができた。児童達は楽しみながら意欲的に活動していた。	A	朝休み、中休み、昼休みに、外で元気に遊ぶ児童が多いと感じた。寒くなってきたも、休み時間に外で遊んでいる児童が多いと聞き喜んでいる。また、放課後も先生とともに遊ぶ児童達の姿が見られる。日常的な外遊びの良い習慣が定着しているとうかがえる。剣玉や縄跳びが全校に広まり、楽しみながら体力作りができる風土が根付いている。	体育科の時間だけでなく、自ら家庭でも体を動かして遊んだり、活動したりしようとする児童が育つように、「体育の宿題」を計画的に出したり、休み時間の運動遊びを積極的に勧めたりして、体力の二極化に歯止めをかけていく。全校に広まっている縄跳びやけん玉を通した体力作りの進め方を検証し、さらに広まりを目指したい。
		13	体力づくりを推進する運動実践を行った。	A					
		14	体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする児童の育成に努めた。	A					
	指導改善	15	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善を行った。	A	A	読み解く力の育成を目指した校内研究の手立てとして、最初の5分間での課題提示や振り返りの時間を設ける等、授業改善に力を入れている。児童達の学ぶ意欲の醸成に向けた自主学習ノート取組や、読書を進める環境づくりにも、継続して取り入れている。働き方改革については、3校訓を軸に学校の落ち着きを醸成するとともに「放課後業務のシステム化」が定着した。	B	今後も、児童達が意欲を持って学び続けられる学習環境の確立に努めてほしい（校内ウイングの活用も含め）。また、業務改善を行うことで、教職員が児童達にゆったりと関わる時間を増やすことと共に、子育てに不安を感じる保護者へ、積極的な支援にかける時間を増やしてほしい。	三校訓の徹底や校内研究、研究授業での成果を活かして、学びに向かう力を育んだり学ぶ意欲を継続させたりする取組を深化させていく。また、読書の時間を推奨するため、本に親しむ機会を増やし、読解力の向上に繋げていく。ＩＣＴの活用で校務の効率化を図るとともに、「放課後業務のシステム化」について検証し、さらに児童に目を向けられるような働き方改革を図っていく。
		16	教職員の指導力及び3公（公開、公平、公正）・3現（直ちに現場、直ちに現地の児童、直ちに現地で対策）の2原則に立った組織的な教育力の向上に努めた。	B					
		17	校務の効率化など多忙感解消の取組と教育活動の質の改善に努めた。	A					

育ちと学びを支える連携	家庭・地域との連携	18	保護者の子育てに対する積極的な支援を行った。	B	B	児童の個別の課題に対する保護者や専門機関、S C・S S W等との連携は、十分に効果を上げている。S Cについては、ほぼ毎回予約がうまっている状況であった。一方、地域の人材活用については、見守り隊の活動をはじめ、ひまわり学級の自立活動、総合的な学習を中心に多くの学習を展開した。また、年間3回の避難訓練を行い、児童達が自主的に避難できるようになるために、予告無しの実施も行っている。	A	安心安全への要望を中心とした学校への要求度が高くなっているが、地域も協力する体制はできているので、大いに活用してほしい。学校は、学校としての考えを持ち、じっくり取り組んでくれているので、継続をお願いしたい。	今後も児童の個別課題への対応は、外部関係機関とも連携して早期に組織的に取り組んでいく。また、テトル配信による学校からの便り、HP等を積極的に活用し、学校の情報を発信していく。特に、不審者や熱中症対策での登下校の見守り活動については、より保護者の協力が得られるように各学級ごとに見守り日を設定し、見守り活動を実施した。また、各家庭へ防犯たすきを配布し、見守り活動の啓発を行った。今後もよりよい方法を熟考する。
		19	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域の人材活用を行った。	B					
		20	防災教育の推進、感染症対策の推進等、安心・安全な学校づくりに取り組んだ。	A					
	保幼小中連携	21	児童の校種間交流や教員の出前授業に取り組んだ。	B	B	保幼小中との連携や中学校との連携は、出前授業やお互いの校園を児童達が行き来する機会を少しずつ増やしてきている。新年度の連携として幼稚園や中学校とカリキュラム作成を進めることができたため、新入生や卒業生の不安解消につながれると考える。また、中学校学区の連携では、特に生徒指導面で積極的に取り組み、日々の情報交換に努めている。	B	保幼小中の連携を大事に考えていることが十分に伝わっている。確実に児童のより良い育ちにつながっている。あいさつや掃除等の重点的な取り組みは、中学校でも大いに生かされている。新年度の教育活動においても、それぞれが安心して学校生活をスタートできるように、今後も工夫を続けてほしい。	新入生やその保護者の不安を少しでも解消できるように、さらなる接続カリキュラムを検討・実施していく。架橋プログラムの作成を通して、幼稚園等との連携の充実に向けて動いている。また、担当学年や担当者だけでなく、全校的な意識の高まりを目指していきたい。
		22	校種間の合同研修会（皇教研等）に取り組んだ。	B					
		23	校種間の授業公開、カリキュラム研究に取り組んだ。	B					
組織的体制の充実	生徒指導体制の充実	24	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導に努めた。	B	A	生徒指導担当・いじめ担当・教育相談担当が密に連携し、問題意識を共有しながら早期対応ができた。しかし、保護者の理解を得ることができず、問題事案がやや長期化したこともあった。毎日、放課後に学年総括会議を行うことで「ほう・れん・そう」も徹底でき、関係各機関との連携もスムーズに行えた。また、各学級で、いじめは絶対許されないということを繰り返し指導している。	A	問題事案に対し、組織的で素早い対応を心がけていることは評価している。今後とも保護者への啓発も含め、児童達が安心して活動できる学習環境の維持に努めてほしい。学級や学校に不安を抱える不登校傾向の児童への対応も評価できる。個々に合わせた対応を、今後も充実させてほしい。	全職員が生徒指導上の課題や問題点について、情報を共有しようと努めている。さらに全校の児童達を全職員がきめ細やかに理解できるように、職員による「志賀小よい子ニュース」の情報集めを積極的に進めていく。また、保護者の理解を得ながら、児童自身の自己指導力の育成をめざした教育活動を推進を図っていく。
		25	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進に努めた。	A					
		26	家庭・地域・関係機関との連携による指導に努めた。	A					
	特別支援教育	27	個別の教育支援計画及び個別指導計画の作成と活用 に努めた。	A	A	年度初・末に学年別のケース会議を開いた上で、個別の指導計画及び教育支援計画を作成し、個に応じた指導を行っている。巡回相談を始めとした各専門機関とも連携し、保護者対応にあたっている。また、職員会議の前半に、特別に支援を要する児童達のことを共通理解する時間を設定し継続している。	A	特別支援教育について、積極的かつきめ細かく取り組んでいることが分かった。児童達の生き生きとした表情や活動ぶりからもそのことが窺えた。また、人数が大変多いにも関わらず、大変落ち着いたことに驚いた。今後も続けてほしい。	今年度同様、特別支援教育に関する研修を年度初めに行い、支援を効果的に行っていきたい。また、学年別のケース会議も継続し共通理解を図りながら組織的な個別対応を進めていく。また、保護者への連絡を密にし、児童へのより適切でより迅速な対応ができるようにしたい。
		28	組織的・計画的な特別支援体制の確立に努めた。	A					
		29	関係機関と連携した相談体制の充実に努めた。	A					

県共通	学校満足度	30	児童の学校満足度	A	A	90%近くの児童が「学校が楽しい」と答えている。	A	保護者アンケートでも80%以上の方が自分の子が学校に行くのを楽しみにしていると答えている。	保護者・地域・学校がそれぞれのよさを生かし合える連携の方法を模索し、よりよい学校づくりに努めた
-----	-------	----	----------	---	---	--------------------------	---	---	---

設定（達成度）の目安

達成度	指 標
A	目標を上回る達成
B	目標を達成又はおおむね達成
C	目標を達成せず
D	目標を大きく達成せず